



MX1400

取扱説明書



株式会社 サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3

TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

このたびは RODEC ミキサー、MX1400 をお買い上げいただき、誠に有難うございます。製品の性能をフルに活用し末永くお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。尚、本書が保証書となりますので、お読みになった後は大切に保管してください。

安全上のご注意

- 1) 雨天や湿気の多いところで製品を保管/使用しないでください。本体に液体をこぼしたり、金属片などが機材内部に入らないようご注意ください。感電の原因となる恐れがあります。本体内部に異物が混入した場合、電源ケーブルを抜いてください。
- 2) 損傷のあるケーブルやプラグを使用すると、火災や感電をおこす恐れがあります。電源ケーブルを傷めないようご注意ください。電源ケーブルをコンセントから抜く際は、必ずプラグ部分を持ち、ケーブル部分を持ってプラグを引き抜かないでください。
- 3) お客様自身で交換/修理可能な部品はありませんので、本体を解体しないでください。本体に不具合が生じた場合は正規輸入代理店か、販売店にご相談ください。
- 4) 定格電圧（100V / 50Hz-60Hz）を守ってお使いください。
- 5) 長期間使用しないときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 6) 本製品は設定次第で音量が大変大きくなる事があります。適切な音量を守ってご使用ください。音源に近い距離で大音量を聞き続けると、聴覚にダメージを及ぼす事があります。

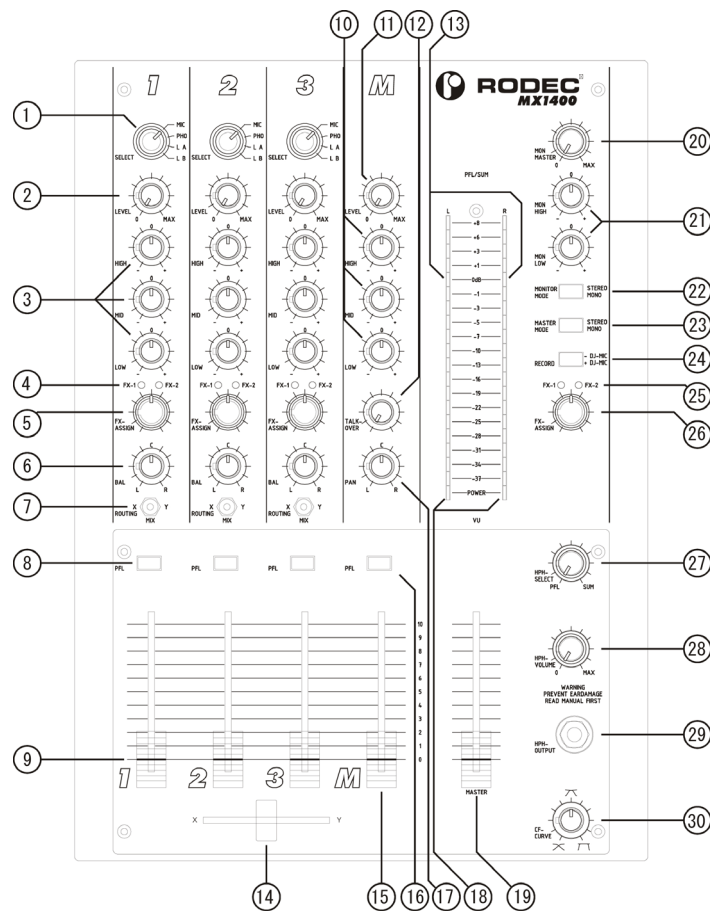
本体の設置

- 1) MX1400 は DJ ブースに設置できます。
- 2) 直射日光の当る場所、ホコリや湿気の多い場所での設置は避けてください。使用する際は周囲の温度が 5°C から 35°C、湿度が 85% 以下であることを確認してください。
- 3) 通気の良い場所に設置してください。
- 4) 携帯電話など、干渉が起こる可能性のある機材を近くに置かないでください。
- 5) スモークマシンやタバコの煙により、ポットやフェーダー等、内部電気パーツの消耗が早まる事がありますので、ご注意ください。
- 6) 重いもの、先のとがったものをミキサーのパネルの上に置かないでください。ノブやスイッチ、LED が破損する恐れがあります。
- 7) 輸送の際はオリジナルの梱包箱、もしくはフライトケースを使用し、衝撃を与えないようご注意ください。

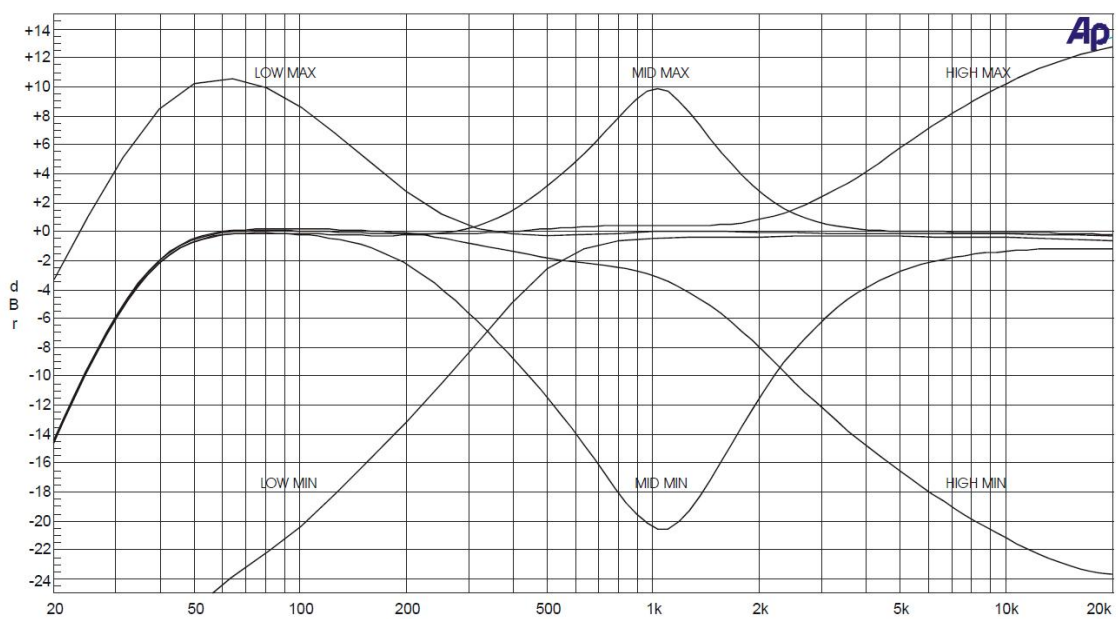
クリーニングとメンテナンス

- 1) クリーニングにはやわらかい布を使ってからぶきしてください。化学薬品や溶剤は使用しないでください。
- 2) フェーダーに接点復活材のスプレーを使用しないでください。フェーダーにダメージを与える可能性があります。

フロントパネル



- 1) 入力選択スイッチ
入力信号を、MICRO, PHONO, LINE A もしくは LINE B から選択します。
- 2) 入力レベルポット
各入力チャンネルの入力レベルを調節します。
- 3) イコライザ音の高域、中域、低域それぞれの量を調節します。



4) 入力チャンネル・エフェクトアサイン LED

エフェクト出力が、どちらのチャンネルを経由しているかを表示するLEDです。FX-1とFX-2のLEDがどちらも消灯している際は、エフェクターへ信号が送られていません。FX-1 LEDが緑色に点灯している時は、そのチャンネルの信号がエフェクト1に送られている事を表します。FX-1 LEDが赤色に点灯している時は、他チャンネルの信号がFX-1に送られており、その他のチャンネルの信号はFX-1に送る事ができない状態にあります。同じようにFX-2 LEDも緑や赤に点灯します。FX-1のLEDが赤く点滅している時は、入力チャンネルのエフェクトアサインノブをセンターの位置に戻してください。

5) 入力チャンネル・エフェクトアサインノブ

入力した信号をエフェクト出力1もしくは2に送る事が出来ます。ノブがセンター(12時)の位置にある時は、信号がエフェクトを経由せず直接メインミックスに送られます。ノブを左に回すと信号がエフェクト出力1に、右に回すとエフェクト出力2に送られます。このノブによりエフェクトのドライ/ウェットを調整する事ができます。

6) バランスコントロール

左右から聞こえる音量のステレオバランスを調整します。センターの位置に合わせると、左右のチャンネルのゲインレベルが等しくなります。左に回すと、右チャンネルの音量が低くなり、右に回すと、左チャンネルの音量が低くなります。

7) ルートセクター

このセクターを使って、クロスフェーダーの左側(X)、右側(Y)、もしくはクロスフェーダーを経由せずMIXへ直接信号を送るか選択する事ができます。

8) PFLスイッチ

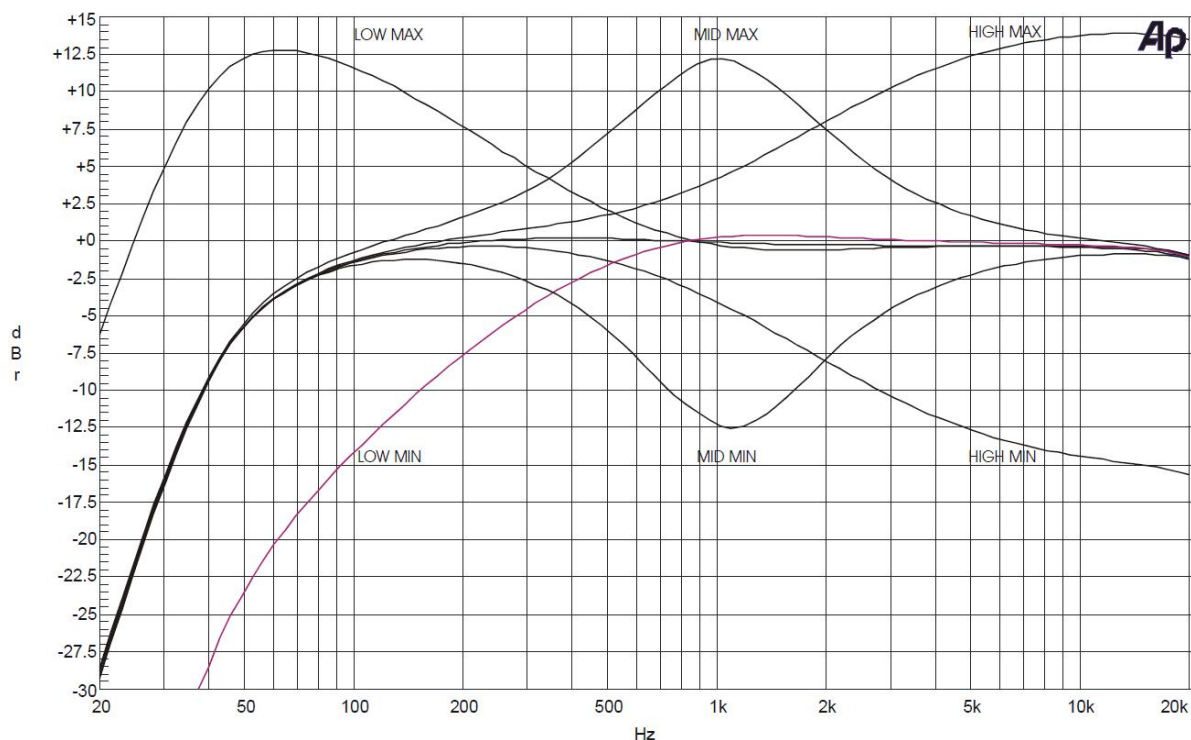
ヘッドホンから聞こえる入力ソースを選択する事ができます。ボタンを押すと緑色に点灯し、そのチャンネルはヘッドホンでモニターすることができます。

9) チャンネルフェーダー

各入力チャンネルのボリュームを調整します。

10) イコライザー

DJマイク用の3トーンコントロールです。



11) DJ マイク入カノブ

マイクのレベル調整を行います。

12) トークオーバーコントロール

マイク信号により減少するボリュームの量を調整します。

13) VU メーター

VU メーターは PFL 信号を表示します。全ての PFL スイッチを OFF にすると、ミックス信号を表示します。

14) クロスフェーダー

ルーティングセレクター(7)で X の位置に送るよう指定したチャンネルと、Y の位置に送るよう指定したチャンネルをクロスフェードさせる事が出来ます。ノブを一番左に動かすと、ルーティングセレクターで X の位置に指定したチャンネルが出力されます。逆に一番右に動かすと、Y の位置に指定したチャンネルが出力されます。その間にある時は、両方のシグナルがミックスされて出力されます。

15) DJ マイクフェーダー

DJ マイク用のボリュームコントロールです。

16) DJ マイク用 PFL スイッチ

このスイッチを押すと、ヘッドフォンでマイク信号をモニターする事ができます。また、左側の VU メーターに信号のレベルが表示されます。

17) マイク PAN

DJ マイク入力信号用のパノラマ式コントロール。このボタンでマイク信号の L/R バランスを調節できます。

18) 電源表示ランプ

電源が入ると黄色く点灯します。

19) マスター出力フェーダー

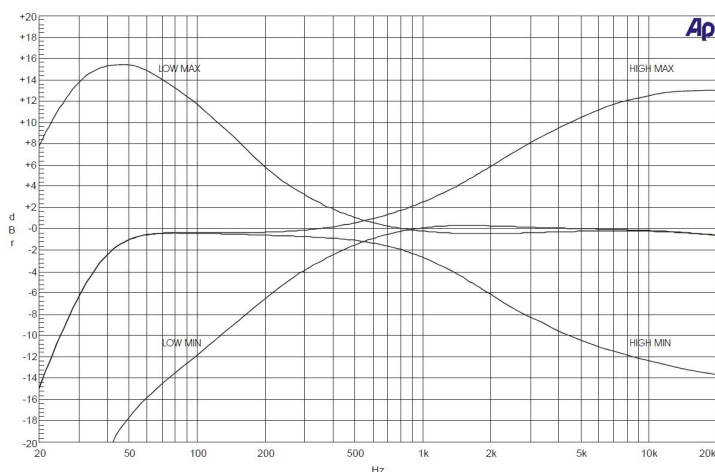
スレーブ機、およびアンプに出力するマスター信号レベルを調整します。

20) モニター出力フェーダー

モニター出力信号のレベルをコントロールします。ハウリングを避ける為、DJ マイク信号は出力されません。

21) モニターイコライザーコントロール

モニター出力のハイとローを調節します。



22) モニター・モードスイッチ

モニター出力をモノラルモード、もしくはステレオモードに設定します。

23) マスター1/2・モードスイッチ

マスター出力1、2をモノラルモード、もしくはステレオモードに設定します。

24) レコード・セレクトスイッチ

マイクの信号を録音対象にするか、選択するスイッチです。

+ DJ MIC : レコード・セレクトをこの位置に設定すると、DJマイク信号も録音されます。

- DJ MIC : レコード・セレクトをこの位置に設定すると、チャンネル1-4信号のみが録音されます。(DJマイク信号は録音されません)

レコード・セレクト設定はマスター出力には影響しません。

25) メインミックス・エフェクトアサインLED

メインミックス信号が、エフェクト出力に送られているかを表示するLEDです。FX-1とFX-2、どちらのLEDも点灯していない場合、メインミックス信号はエフェクトに送られていません。FX-1LEDが緑色に点灯している場合、メインミックス信号がエフェクト出力1に送られている事を表します。FX-1LEDが赤く点灯している場合、既に他の入力チャンネルの信号がエフェクト出力1に送られており、他のチャンネルの信号を送る事は出来ません。同じようにFX-2LEDも緑や赤に点灯します。FX-1のLEDが赤く点滅している時は、メインミックスのエフェクトアサインノブ(26)をセンターの位置にもどしてください。

26) メインミックス・エフェクトアサインノブ

メインミックス信号をエフェクト出力1もしくは2に送る事が出来ます。ノブがセンター(12時)の位置にある時は、信号がエフェクト出力を経由することなく、直接メインミックスに送られます。ノブを左に回すと信号がエフェクト出力1に、右に回すとエフェクト出力2に送られます。このノブによりサウンドのドライ/ウェットを調整する事が出来ます。

27) ヘッドフォンセレクトノブ

ヘッドフォン出力に送られる信号を選択します。ノブを左に目一杯回すと、チャンネルPFLスイッチ(8)で選択された信号が出力されます。右に目一杯回すと、ミックス信号が出力されます。その間では、PFL信号とミックス信号が設定した量に応じて、一緒に出力されます。

28) ヘッドフォンボリュームノブ

ヘッドフォン出力のボリュームを調整します。

警告! ヘッドフォンアンプによって増幅される音は大変大きくなる事があります。適切に使用しない場合、聴覚に一時的あるいは恒久的なダメージを与える可能性があります。

29) ヘッドフォン出力端子

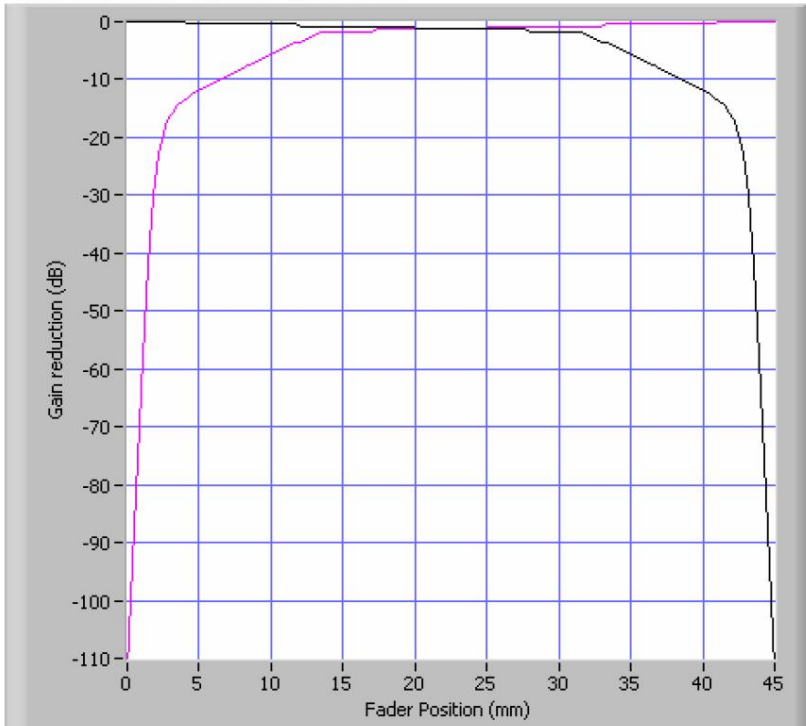
モニター用のヘッドフォンを接続します。PFLスイッチ(8, 16)、ヘッドフォンセレクトノブ(29)で設定した音源、ミックス信号を出力します。(32-600Ωのヘッドフォンに対応)

注意! ヘッドフォンを装着する前に、必ずボリュームを0に下げ、徐々に音量を上げてください。

30) クロスフェーダーカーブ・ノブ

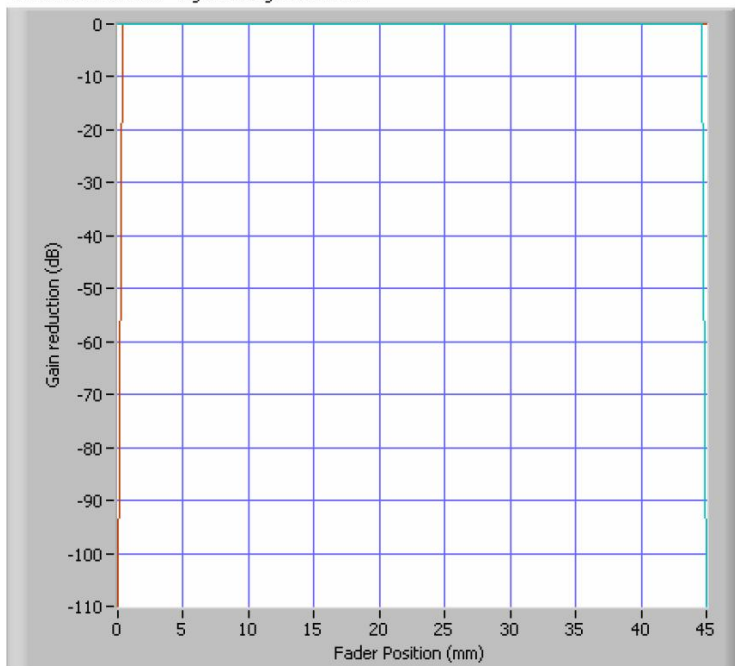
クロスフェーダーのカーブ調整を行います。左に目一杯回すと、クロスフェーダー(14)が通常のクロスフェーダーと同様に働きます。ルーティングセレクター(7)でYに指定したチャンネルの音量が、フェーダーのシャフトが左から中央に動いていくにつれ0から最大にまで上がっていきま。Xに指定したチャンネルも、右から中央にフェーダーが動いていくにつれ、同様に音量が上がっていきます。

Cross-fader curves - logarithmic gain reduction

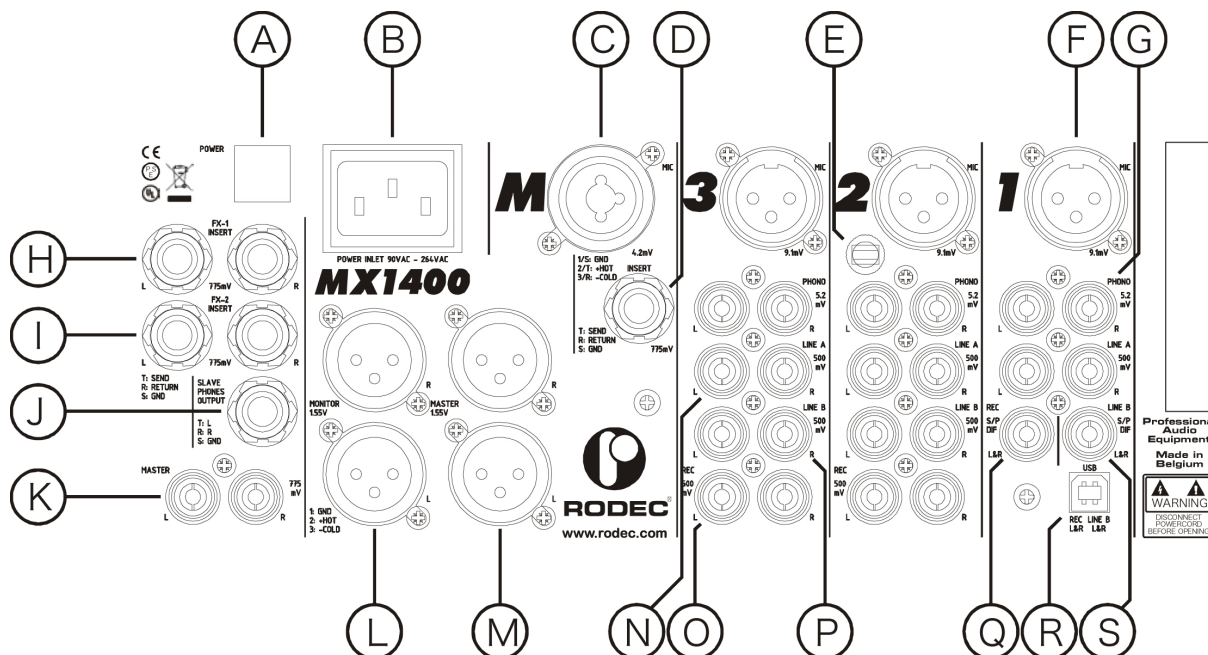


ノブを右に目一杯回すと、クロスフェーダーの反応速度が上がり、フェーダーを両端から少し動かすだけで、Y、Xそれぞれに指定したチャンネルのボリュームを上げる事が出来ます。

Cross-fader curves - logarithmic gain reduction



バックパネル



A) 電源スイッチ

電源を ON/OFF するスイッチです。

注意! 電源を切ると、本機はスタンバイモードとなります。この状態ではまだ電気を消費しています。完全に電源を切るには電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

B) 電源コネクター

付属の電源ケーブルを使用して、電源を接続して下さい。

C) マイク入力

バランス仕様マイク入力です。マイクケーブルでの干渉を防止する為、バランス出力のマイクを使用してください。

D) DJ マイク用エフェクト入出力

マイクチャンネルにエフェクターを接続するためのインサート端子です。何も接続されていない場合は、マイクからの信号のみが出力されます。この入出力端子の感度は775mVです。

E) アース端子

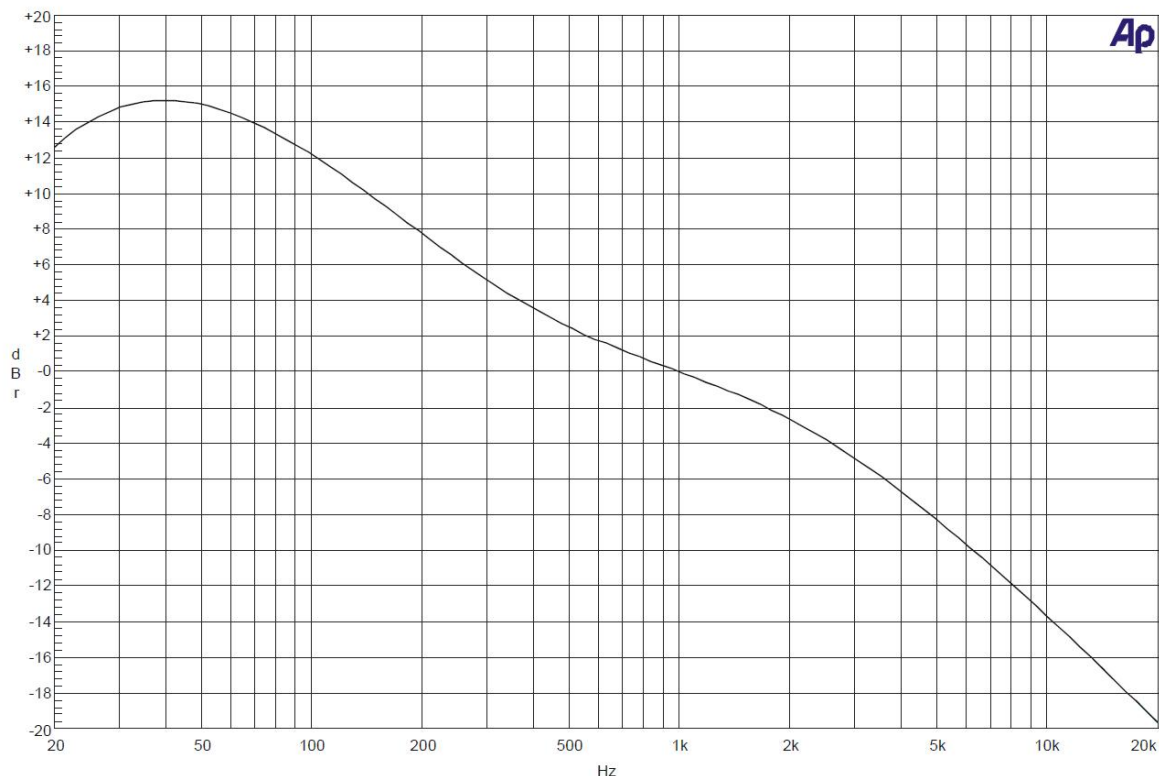
ターンテーブルにアースが搭載されている場合、この端子に接続してください。

F) DJ マイク入力

4.2mVの感度を持つバランスマイク入力です。XLR、フォン、どちらのプラグも使えるコンボジャックを採用しています。

G) フォノ入力

入力感度 5.2mV のフォノ入力です。RIAA 修正機能を搭載しています。



H) エフェクト入出力 1

外部エフェクトを接続する入出力端子です。この端子を経由して送られた信号は、入力チャンネルのエフェクトアサインノブ、もしくはメインミックスのエフェクトアサインノブでコントロールします。端子の入力感度は 775mV です。

I) エフェクト入出力 2

外部エフェクトを接続する入出力端子です。この端子を経由して送られた信号は、入力チャンネルのエフェクトアサインノブ、もしくはメインミックスのエフェクトアサインノブでコントロールします。端子の入力感度は 775mV です。

J) 予備ヘッドフォン出力端子

フロントパネル上のヘッドフォン出力 (31) と全く同じ信号をこの端子でモニターすることができます。コネクタの仕様もフロントパネル上のヘッドフォン出力と同じです。

K) RCA マスター出力

パワーアンプに接続するアンバランス出力端子です。マスターフェーダー(19)を使い、0~0.775V の範囲で出力レベルを調整します。

L) モニター出力

モニター用の予備出力端子です。モニターフェーダー(20)を使い、出力電圧を 0~1.55V の範囲で調整できます。マイクからの信号はこの端子からは出力されません。

M) XLR マスター出力

パワーアンプやプロセッサーを接続するバランス出力端子です。マスターフェーダー(19)を使い、0~1.55V の範囲で出力レベルを調整できます。

N) アナログライン入力端子 A

入力感度 500mV のアナログ/アンバランス入力端子です。CD、MD、DVD、MP3、ハードディスク、カセット、ビデオなど各種プレーヤーおよびデジタルチューナーを接続します。

O) アナログレコード出力端子

アナログの録音機器、HIFI ビデオレコーダーに接続する為の出力端子です。スイッチの切り替えにより、DJ マイクからの信号(24)を出力するか選ぶ事が出来ます。(チャンネル 2 及び 3 にのみ搭載されています)

P) アナログライン入力端子 B

入力感度 500mV のアナログ/アンバランス入力端子です。CD、MD、DVD、MP3、ハードディスク、カセット、ビデオなど各種プレーヤーおよびデジタルチューナーを接続します。(チャンネル 2 及び 3 にのみ搭載されています。)

Q) デジタルレコード出力端子

MD、CD、HD そして DAT 等、各種デジタルレコーダーの S/P DIF 入力に接続するための出力端子です。スイッチの切り替えにより、DJ マイクからの信号(24)を出力するか選ぶ事が出来ます。L/R 両方の信号が 1 つのコネクターより出力されます(チャンネル 1 及び 4 にのみ搭載されています)。

R) USB 入出力端子(別売)

PC や HD プレーヤーを接続し、音楽を再生するだけでなく、同時にメインミックス信号を PC や HD レコーダーに録音する事が出来ます。4 つ全ての信号(再生 L/R、録音 L/R)が 1 つのコネクターを介して送られます。(チャンネル 1 及び 4 でのみ可能)

S) デジタルライン入力端子 B

CD や MD、DVD、MP3、HD など各種プレーヤーもしくはデジタルチューナーを接続するデジタル S/PDIF 入力端子です。L/R 両方の信号が 1 つのコネクターを介して送られます。(チャンネル 1 及び 4 にのみ搭載されています)

入出力に使用するケーブルは 1 メートルより短い物を使う事をお勧めします。

操作方法

- 1) 全ての機器の電源がオフになっている事を確認してから、音源、パワーアンプ、エフェクター、ヘッドフォンを接続します。接続が終わったら音源とエフェクターの電源を入れます。その後ミキサーの電源スイッチ(A)をONにします。電源表示ランプが点灯します。その後5秒経過したら、スピーカー、プロセッサ、パワーアンプの電源を入れます。

図—差替え

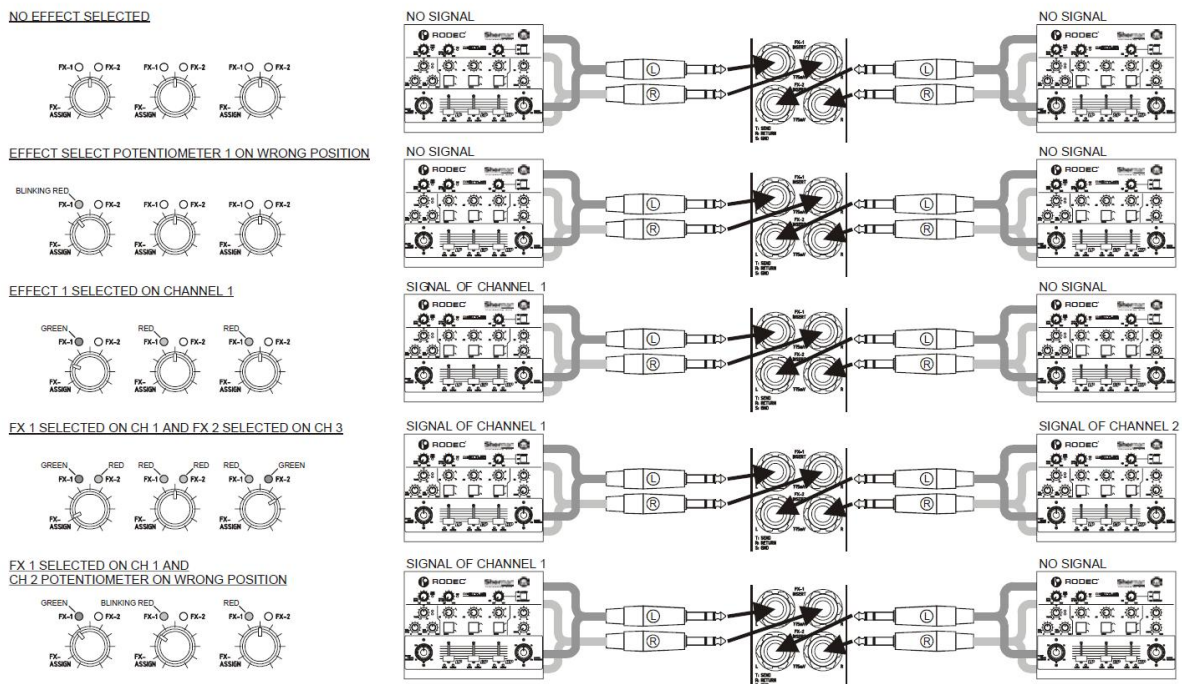
- 2) ヘッドフォンをヘッドフォン出力端子(29 or J)に接続します。インピーダンスが $32\Omega \sim 600\Omega$ の物をご使用ください。

注意! ヘッドフォンを装着する前に、必ずボリュームを0に下げ、徐々に音量を上げてください。

- 3) 入力選択スイッチ(1)で適切な音源を選択します。
- 4) PFL ボタン(8)をONにし、任意の音源が聞こえるようにします。ヘッドフォンセレクトノブ(28)を左一杯まで回し、ヘッドフォンボリュームノブを任意の位置に調整します。これでヘッドフォンからステレオ信号を聴くことができます。また左側のVUメーター2基にもステレオ信号が表示されます。PFL回路はSUMシステムとして作動する為、同時に複数の音源をモニター可能です。これらのモニタリング操作によって、最終的な出力信号に影響が出ることはありません。入力レベルポット(2)で入力信号レベルを調節し、レベルメーター(13)の赤インジケーターが時々点灯する程度に設定してください。必要に応じてイコライザー(12)で音質を変えてください。

注意! 各入力に搭載されているEQは音源ソースの音質を個別に調整するものです。全体の音質を加工したい場合、外部イコライザーを使用する事をお勧めします。

- 5) シグナルをエフェクト出力に送る際は、まずエフェクトバスが他のチャンネルに使われていない事を確認してください。入力チャンネル・エフェクトアサインLED(4)のFX-1が点灯していない場合、FX-1のバスが空いている状態です。FX-2のLEDが点灯していない場合、FX-2のバスが空いている状態です。入力チャンネル・エフェクトアサインノブ(5)が誤った設定になっていると、どちらか片方のLEDが赤く点滅します。その場合ノブをセンター(12時)の位置に戻してください。FX-1バスを選択するには、エフェクトアサインノブを左に回します。最初はエフェクトの効果は聞こえませんが、更に左に回すにつれて効果をはっきりと聞こえるようになります。目一杯左に回すと、100%の信号にエフェクトが掛かります。同様に、ノブを右側に回すとFX-2のバスを選択します。FX-1バスが選択されている時は、対応するLEDが緑色に点滅します。FX-2バスも同様に選択している間はLEDが緑色に点滅します。他の入力チャンネル及びメインミックスのLEDが赤く点灯し、該当するエフェクトバスが使用されている事を表示します。



- 6) 選択した入力チャンネルのフェーダー(9)を上げます。
- 7) マスターフェーダー(19)の両方、もしくは片方を上げてボリュームの調整を行います。同様にDJブース内で十分なモニターが出来る様、モニター出力フェーダー(20)の調整を行います。
- 8) DJブース内のサウンドは、モニターイコライザーコントロール(21)で調整を行う事も出来ます。
- 9) 必要に応じてバランスコントロールノブ(6)で左右のバランスを整えます。マスター1/2をモノラルで出力する際は、モードスイッチ(23)をモノラルに設定します。また、モニター信号をモノラルで出力する際は、同様にモニター・モードスイッチ(22)をモノラルの位置に設定します。
- 10) クロスフェーダー(14)を使用する際は、ルーティングスイッチ(7)をXの位置にすることで、該当するチャンネルの信号をクロスフェーダーの左側に送る事ができます。同様にルーティングスイッチをYの位置にすると、該当するチャンネルの信号をクロスフェーダーの右側に送る事が出来ます。クロスフェーダーのレスポンスカーブは、クロスフェーダーカーブ・ノブを使って調節する事が可能です。

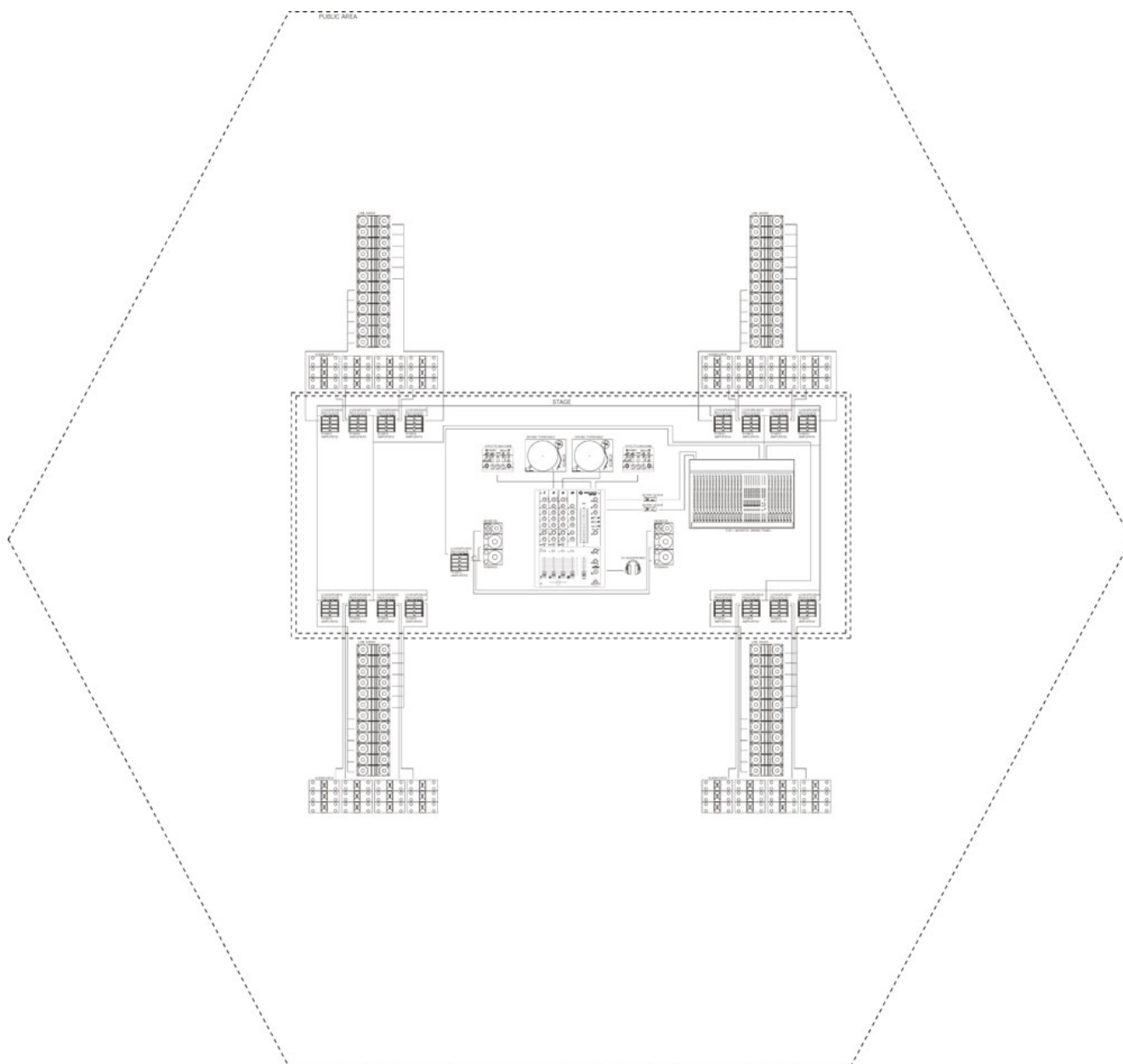
- 11) 音源を変更する際は上記 3)から 6)の動作を繰り返してください。
- 12) ヘッドフォンセレクトノブ(28)を右側に回すと、ヘッドフォンから聞こえるメインミックス信号の量を増やす事が出来ます。
- 13) マイクからの信号を追加するには、まずマイクを DJ マイク入力(C)に接続します。DJ マイク入力ノブ(11)とトークオーバーコントロールノブ(12)を一度 0 の位置にしてから、DJ マイクフェーダー(15)をあげ、その後ノブで再度マイク信号のボリュームを調節します。マイクのサウンドを調整するにはイコライザー(10)を使用します。トークオーバーを使用する際はトークオーバーコントロールノブ(12)で調節します。マイク PAN(17)ノブを使って、DJ マイク信号の定位を変更する事が可能です。コンプレッサーやリバーブと言った外部プロセッサーを使用する際は、エフェクト入出力端子(H)に接続します。
- 14) ミックス信号を録音するには、レコーダーをアナログ(O)もしくはデジタル(Q)のレコード入出力端子にレコーダーを接続します。レコード・セレクトスイッチ(24)で、マイク信号を録音に含めるか含めないかを選択する事ができます。また、オプションの USB コネクタ(R)があれば、PC を使ったレコーディングも可能となります。
- 15) メインミックス信号は、エフェクトインサート出力に送る事も出来ます。これは各入力チャンネルの信号をエフェクトインサート出力に送ると同様に行う事が出来ます。手順 5) を参照してください。メインミックスのエフェクトアサイン LED(25)を確認しながら、メインミックス・エフェクトアサインノブで、どちらのエフェクト出力にどの位信号を送るか調節していきます。
- 16) 各チャンネルの PFL スイッチ(7)が全て OFF の時は、MIX 信号が VU メーターに表示されます。MIX 信号と任意のチャンネルのボリュームを比較する際は、全ての PFL スイッチを OFF にしてから、任意の PFL スイッチを ON にして視認することができます。

サブソニック・フィルター

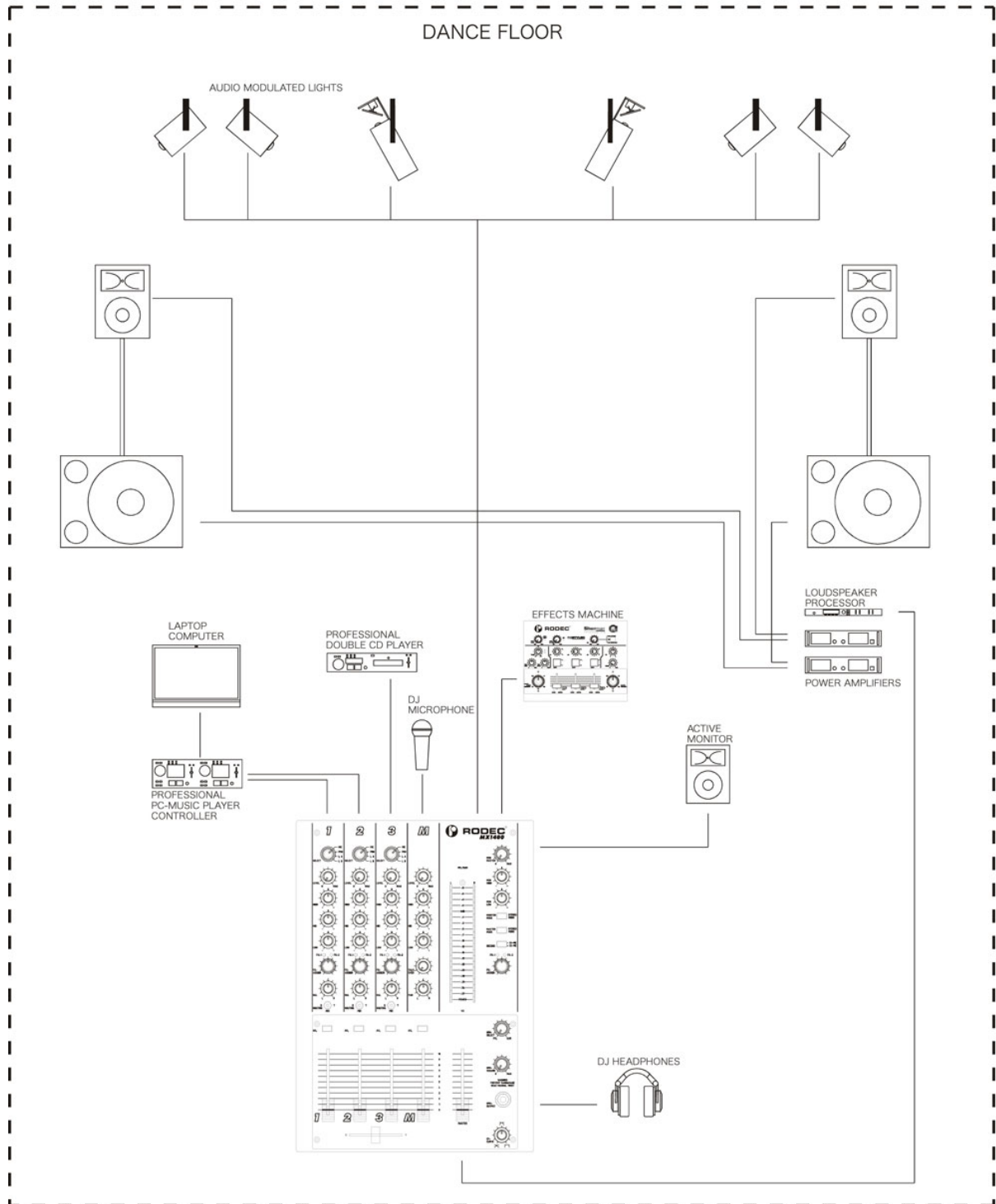
マスター出力×2 とモニター出力にはサブソニック・フィルターが搭載されています。このフィルターにより 10Hz で 25dB カットされ、低域用のスピーカーを DC やサブソニック信号による損傷から保護します。フィルターを解除することはできません。

使用例

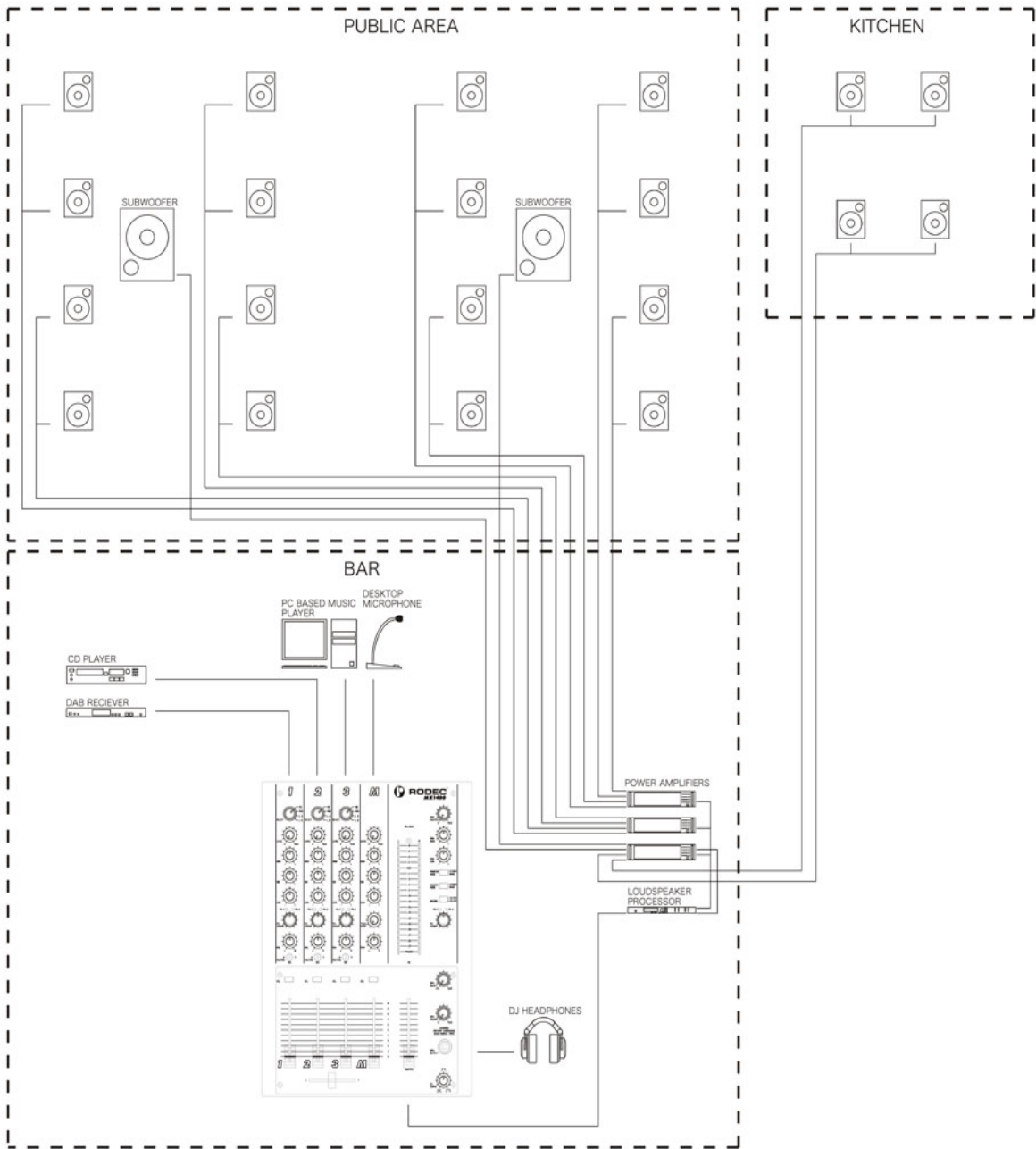
大型ディスコ、クラブ



ドライブイン



パブ・レストラン



オプション

1) USB I/O セット

ミキサーを直接 PC に接続するための In/Out ボードです。USB コネクタ経由で、ステレオ入力信号を 1 系統、ステレオ録音出力信号を 1 系統、送受信します。これにより、コンピューターの音源を USB 経由で再生する事が出来るだけでなく、同時にミックスした音源を PC に録音する事も可能となります。取り付けは以下の方法で行ってください。

まず、フロントパネル上のフェーダーノブ(9, 14, 15, 19, 20)を取り外します。アルミ製のフェーダーカバープレートのネジ(6 本)をゆるめ、プレートを取り外します。次にフロントパネル上に 3 本、両サイドに 1 本ずつ、底に 3 本あるネジをゆるめ、シャーシを取り外します。さらに USB オプションを取りつける為の穴をカバーしているカバープレートを取り外します。入力 PCB 上にある 6 極コネクタと、USB オプションの PCB 上にある 6 極コネクタを合わせるように取りつけます。バックパネル上のネジを締め、USB オプションをマウントします。シャーシ、アルミ製フェーダーカバープレートを元に戻し、ネジで固定します。USB I/O セットと PC を USB ケーブルで接続します。PC が USB I/O セットを認識したら、コントロールパネルを開き、サウンドとオーディオデバイスのプロパティで、USB I/O セットを再生/録音のデバイスとして選択します。USB I/O セットは RODEC 正規代理店でお買い求め頂けます。

Order Code: 94 001 0070

2) デジタル/オプティカル入力チャンネルフェーダーセット

ミキサーにデジタル入力チャンネルを追加するオプションセットです。標準のアナログフェーダーの代わりに取り付けます。取り付けは以下の方法で行ってください。

まず、フロントパネル上のフェーダーノブ(9, 14, 15, 19, 20)を取り外します。アルミ製のフェーダーカバープレートのネジ(6 本)をゆるめ、プレートを取り外します。付け替えを行うチャンネルフェーダーのネジ(2 本)をゆるめ、取り外します。入力 PCB 上の 4 極フラットケーブルを取り外します。デジタル入力チャンネルフェーダーに同梱される 10 極のフラットケーブルを入力チャンネル PCB 上の 10 極コネクタ(PFL スイッチの下)に合わせて接続します。フェーダーをフロントパネルに取り付けます。フェーダー PCB 上の 10 極コネクタが、クロスフェーダー(14)側にある事を確認してください。アルミ製のフェーダーカバープレートとフェーダーノブを元に戻します。これで、デジタル/オプティカル入力チャンネルフェーダーが使用できるようになります。デジタル/オプティカル入力チャンネルフェーダーは RODEC 正規代理店でお買い求め頂けます。

Order code: 94 001 0072

3) デジタル/オプティカルクロスフェーダーセット

標準のアナログクロスフェーダーをデジタル/オプティカルクロスフェーダーにアップグレードするオプションセットです。取り付けは以下の方法で行ってください。

まず、フロントパネル上のフェーダーノブ(9, 14, 15, 19, 20)を取り外します。アルミ製のフェーダーカバープレートのネジ(6 本)をゆるめ、プレートを取り外します。次にフロントパネル上に 3 本、両サイドに 1 本ずつ、底に 3 本あるネジをゆるめ、シャーシを取り外します。クロスフェーダーのネジ(2 本)をゆるめ取り外します。出力 PCB 上にあるクロスフェーダーの 4 極フラットケーブルを取り外します。デジタル/オプティカルクロスフェーダーに同梱されている 10 極フラットケーブルを出力 PCB 上の 10 極コネクタに合わせて接続します。フラットケーブルのもう片方をデジタル/オプティカルクロスフェーダーに接続します。デジタル/オプティカルクロスフェーダーをフロントパネルに取り付けます。フェーダー PCB 上の 10 極コネクタが出力 PCB とは反対側にある事を確認してください。シャーシ、フェーダーカバープレート、フェーダーノブを元に戻します。これで、デジタル/オプティカルクロスフェーダーが使用できるようになります。デジタル/オプティカルクロスフェーダーセットは RODEC 正規代理店でお買い求め頂けます。

Order code: 94 001 0073

4) スタンダードノブセット

MX00シリーズミキサー共通のノブセットです。スタンダードノブシリーズセットはRODEC正規代理店でお買求め頂けます。

Order code: 94 001 0074

5) フェーダーノブセット

フェーダーノブセットです。フェーダーノブセットはRODEC正規代理店でお買求め頂けます。

Order code: 94 001 0041

基本仕様

0dBm = 0.775V RMS

公称アナログ入力レベル	<ul style="list-style-type: none"> - ライン A アンバランス(RCA): 500mV / 50kΩ - ライン B アンバランス(RCA): 500mV / 50kΩ - フォノ アンバランス (RCA 金メッキ): 5.2mV / 50kΩ - マイク (チャンネル 1 – 4) バランス (XLR): 9.1mV / 3.6kΩ - マイク バランス (XLR、標準ステレオフォン): 4.2mV / 1.8kΩ - エフェクト リターン (標準ステレオフォン): 775mV / 10kΩ - プライオリティ入力 (オプション) (RCA): 500mV / 1.5kΩ
公称アナログ出力レベル	<ul style="list-style-type: none"> - マスター 1 アンバランス (RCA): 775mV / 10kΩ - マスター 1 バランス (XLR): 1.55V / 600Ω - モニター バランス (XLR): 1.55V / 600Ω - レコード アンバランス (RCA): 500mV / 10kΩ - エフェクトセンド (標準ステレオフォン): 775mV / 10kΩ - ヘッドフォン (1/4" TRS JACK): <ul style="list-style-type: none"> - 8Ω: (1kHz – 1%THD) 417mW (1.8V) / 1.1W - 32Ω: (1kHz – 1%THD) 1.0W (5.7V) / 1.7W - 600Ω: (1kHz – 1%THD) 520mW (17.7V) / 0.6W
デジタル入力	<ul style="list-style-type: none"> - ライン B (RCA): S/P DIF IEC 958 タイプ II 32kHz – 192kHz - USB (オプション): 32kHz - 48kHz 16bit
デジタル出力	<ul style="list-style-type: none"> - レコード (RCA): S/P DIF IEC 958 タイプ II 44.1kHz - USB (オプション): 11.025kHz - 48kHz 16bit
シグナルヘッドルーム	20.0dB @ 1kHz / THD < 0.05%
クロストーク	<ul style="list-style-type: none"> - 入力チャンネル左右: >60dB @ 1kHz - チャンネル間: >86dB @ 1kHz
周波数特性	+/- 0.25 dB from 20Hz to 20kHz
サブソニックフィルター	-25dB at 10Hz
ダイナミックレンジ	103dB
S/N比	90dB
全高調波歪み	< 0.006%
マスター出カイコライザー	<ul style="list-style-type: none"> - Low: +10dB / -21dB at 100Hz - Mid: +10dB / -21dB at 1kHz - High: +10dB / -21dB at 10kHz
マイクイコライザー	<ul style="list-style-type: none"> - Low: +/- 12dB at 100Hz - Mid: +/- 12dB at 1kHz - High: +/- 12dB at 10kHz
モニター出カイコライザー	<ul style="list-style-type: none"> - Low: +12dB / -12dB at 100Hz - High: +12dB / -12dB at 10kHz
電源電圧	90VAC – 264VAC
電源周波数	47Hz – 63Hz
消費電力	38W (電源ON時), 60W (全負荷時), 6W (スタンバイ)
動作温度	0°C – 40°C
動作湿度	5% - 90% (no condensation)
寸法	<p>フロントパネル (W x D): 320.0mm x 355.0mm (8HE) シャーシ (W x D x H): 312.0mm x 343.0mm x 110.0mm パネルカットアウト (W x D): 316.0mm x 347.0mm 梱包サイズ (W x D x H): 335mm x 414mm x 207mm 重量: 4.50kg 梱包重量: 5.46kg</p>

保証書

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より1年間有効

■保証規定

保証期間内において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書きに基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。保証期間は通常ご購入日より1年ですが、商品によって異なる場合があります。但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取扱いが不適当（例：ボイスコイル焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. お客様自身が行った調整や修理作業が原因となる故障および損傷。もしくは、製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことによる故障及び損傷とみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動等）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト、各種パーツ、ギター弦等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. その他、メーカーや代理店の判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の発送や持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、弊社指定の運送会社に限り着払いにて受け付けます。その際、下記RA番号が必要となります。沖縄などの離島の場合、着払いでの受付は行っておりませんので、送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

サウンドハウス宛に商品を送る際は、いかなる場合でもサポート担当より通知されるRA番号を必要とします。また、初期不良または保証期間内の修理における着払いでの運送についても、RA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状に明記してください。RA番号が無いものについては、着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はその便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損失等の損害に関して、サウンドハウスは一切の責任を負いません。

加えて、交換や修理等には当初の予定よりも時間を要することがありますが、遅延に関連する損害についても一切の責任を負いません。また、原則として代替機は、ご用意しておりませんのであらかじめご了承ください。

